

6モデル

モデル①

コミュニティの活性化で絆が深まる街づくり

モデル②

新サービスの創出で魅力高まる街づくり

モデル③

官民の連携で公共を支える街づくり

モデル④

新産業の創出で雇用が生まれる街づくり

モデル⑤

街インフラ管理の最適化で持続する街づくり

モデル⑥

住民との共創で発展する街づくり

災害時の活用
(自治体・民間)

行政サービスの改善
(民間)

新しいサービス事業の創造
(民間)

街づくり計画
(自治体・民間)

ICT街づくり共通基盤

ビッグデータ

データ連携

データ処理

データ管理

クラウド

センサー機器

センサー機能を持った機器

環境情報、交通情報
医療・健康情報、教育情報 等

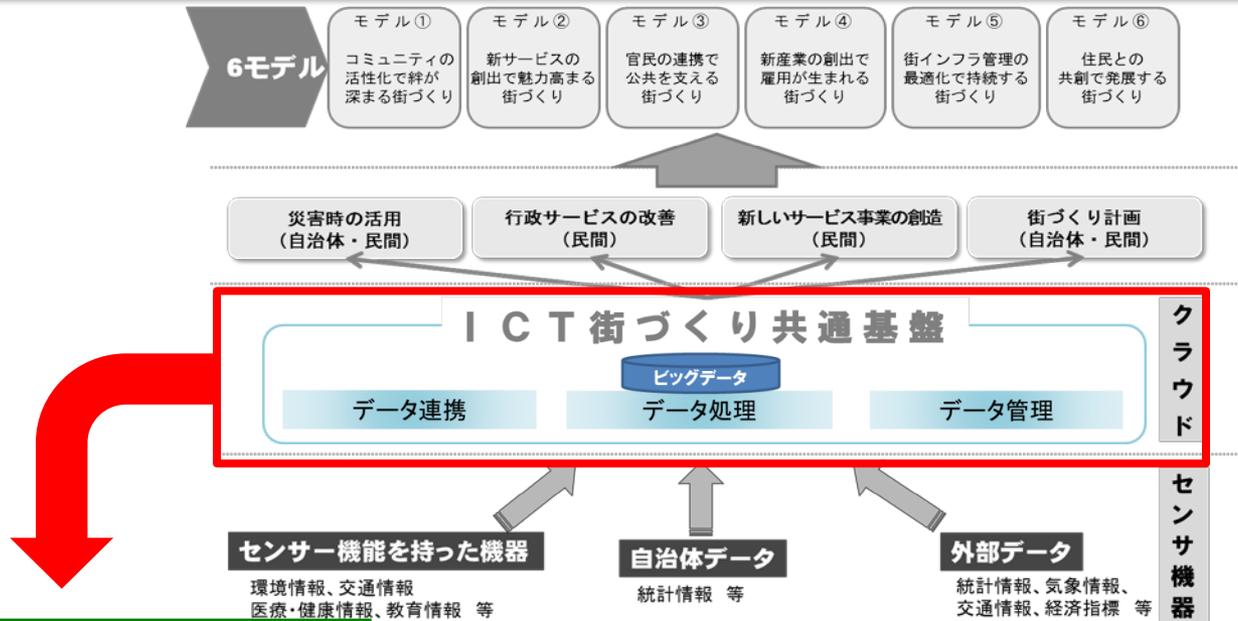
自治体データ

統計情報 等

外部データ

統計情報、気象情報、
交通情報、経済指標 等

ICT街づくり共通基盤の概念等



アーキテクチャの必要性

- ICTによる街づくりでは様々なステークホルダーが協業するため、それを支援するアーキテクチャが必要
- アーキテクチャでは、各階層の役割及び階層相互のつながり方の明確な定義が必要

プラットフォーム層の役割

概念

異なる分野、地域横断、二次利用、将来予測等の情報活用により新たな価値を創造するための、セキュアかつ適切な管理や流通を実現

(例：健康支援情報×生活支援情報⇒食事療法情報の提供)

要求条件

データの安全な利活用（認証等）、データの安全保管（暗号化・分散保管等）、データの安全な流通、証拠追跡、データ標準化 等

諸課題

- 運用スキーム（運用主体・共同利用規定等）
- データの利用規定（二次利用規定・技術標準化、保管場所等）